

2018-19年度ライオン誌日本語版委員会 第10回会議 報告書

日 時：2019年4月8日(水) 13:30～16:00

場 所：一般社団法人 日本ライオンズ 事務所

出席者：委員長	矢野 敏明 (336複合地区／島根県・松江葵ライオンズクラブ)
編集長	稲岡 敬弘 (332複合地区／秋田ライオンズクラブ)
委員	渡辺 和廣 (330複合地区／山梨県・甲府シティライオンズクラブ)
委員	渡辺 修 (331複合地区／北海道・美唄ライオンズクラブ)
委員	渡邊 信也 (333複合地区／新潟県・亀田ライオンズクラブ)
委員	神崎 守 (335複合地区／京都やわたライオンズクラブ)
委員	椿 幸雄 (337複合地区／熊本火の国ライオンズクラブ)
ITアドバイザー	荘 英隆 (東京恵比寿ライオンズクラブ)
欠席者：国際理事	佐藤 義雄 (長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ)
国際理事	安澤 莊一 (福島県・白河小峰ライオンズクラブ)
委員	西川 恒彦 (334複合地区／静岡県・富士宮ライオンズクラブ)
ITアドバイザー	辰巳 博昭 (兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ)



矢野委員長の開会あいさつに続き、矢野委員長と稲岡編集長の進行で議事に入った。

【議事】

1. ライオン誌日本語版の運営 (別紙-月次決算報告)

2019年2月度の収支計算書を元に会計担当者から説明があった。この月は本誌の発行があったためライオン誌送料を収支双方に計上し、また紙媒体発行に関わる印刷費2,562,840円、及び発送事務費1,016,459円が発生。また、社団の要請を受け矢野委員長、稲岡編集長、荘ITアドバイザーが出席した社団理事会とのプロジェクト会議旅費95,860円が委員会費に、日本ライオンズ賛助会費、複合地区費、地区費の会費一括請求のための送料198,240円が通信費に計上されている。その結果、2月度は約64万円の赤字となり、累計では5,424,966円の収支差額が出ていることが説明された。※一般社団法人理事会旅費や借室料など、年度末精算の予算額を差し引いた収支は約327万円の黒字。

2. 本誌関係

●2019年5・6月号 (2019年4月20日発行) 記事内容の確認

事前に送付された5・6月号校正を元に内容を確認した。特集は「アラート・プログラム」(神崎提案)で、2月3日に335複合地区の主催で開かれた全国アラート・フォーラムの内容を中心に記事をまとめた。表紙は前回会議で決定したライオンズの災害支援現場の写真を採用。この号に広島フォーラム展望(矢野委員長担当)とLCIF年次報告(国際協会指定記事)を掲載。インフォメーションには国際平和ポスター・コンテスト大賞受賞作、第1副地区ガバナー／地区ガバナーエレクト・セミナー、広島フォーラム・ステアリング委員会、ライオンズクエスト・フォーラム全国大会の記事などを入れる。熊本地震に対するLCIF交付金事業の報告

記事は予定原稿として入稿し、4月10日に椿委員と共に取材した後、12日の校了日に写真等を追加する。また、ウェブマガジンのニュースに速報記事を入れた上で、同7月号テーマに詳しい記事を掲載する。333複合地区の渡邊委員から修正箇所の指摘があり、校了データに反映させ、会議終了後に印刷会社へ入稿する。

●2019年7・8月号（2019年6月20日発行）台割案

特集「私の考えるライオンズクラブ」（神崎提案）は、本誌で募集をした同テーマの全応募作を内容によって分類し、各委員がそれぞれの分類項目ないし個別の応募作について提出した所感を集約した結果、330複合地区渡邊委員と331複合地区渡邊委員が挙げた「ライオンズの魅力」をテーマに記事をまとめることを決定。両渡邊委員に稲岡編集長を加えた3人で鼎談を行うと共に、委員が所属クラブや近隣のクラブの協力を得て簡単なアンケートを実施し、そこで集約された意見も参考にしながら記事をまとめることとする。「国際理事だより：安澤莊一国際理事」、「編集室：神崎守委員」。「地区ガバナー紹介」は昨年同様のレイアウトで掲載。

3. ウェブマガジン関係

●2019年4月号（4月1日更新）出来

4月1日更新のウェブマガジン4月号の出来を確認した。神崎委員から、一つひとつの記事は活動内容を詳しく伝え過不足ない仕上がりになっているが、全体を通して読むと記事がパターン化していて退屈に感じる。もう少し工夫をして、入り込んでいけるような魅力のある記事にしてほしい、との指摘があった。

●2019年5月号以降台割案

5月号から7月号の主要コンテンツについて、内容と取材経費が提出され、承認された。

4. 主要記事予定

●2018-19年度主要記事予定

現在まで決まっている主要記事予定を確認した。ウェブマガジン5月号の予定に入っている「国際大会公示」「公式通達」「国際第3副会長候補」については、本部からの配信があり次第、ニュース欄に掲載する。

●2019年3月取材経費

3月に実施した取材の旅費及び外注費の経費一覧が提出され、確認をした。

●2019年4～2019年5月取材経費概算

4月から5月（一部6月）にかけての取材経費概算が提出され、取材日が決まっていない等、予定が確定していない3件を除き取材を承認した。

5. ライオン誌日本語版の方向性

第7回会議以降継続審議してきたこの問題に関し、これまでの検討事項と各委員の意見をまとめた。

●国際協会の方針に従ってデジタル化を推進しながら、デジタル化への対応が難しい会員のために印刷版を隔月に発行する現在の方向を維持する。

●ライオン誌公式版に関しては国際理事会方針書に明確な規定があり、ライオン誌委員会としてはそれに従って与えられた収入の中で最良のものを作っていく。

●ライオン誌委員会も一般社団法人日本ライオンズの一委員会となった中で日本ライオンズと調整しながら、理事会方針との整合性を図っていく。

- 将来的には会員減少による収入減など懸念材料があるが、デジタル化を進めることで、印刷版の発行回数を国際協会が認める範囲まで減らしたり、ウェブでの投稿を増やしたりすることで対応可能であり、どの方法を採用するかは、デジタル化の進捗状況を見ながらその時の委員会で検討する。

6. その他

- 荘ITアドバイザーから、中村泰久元国際理事を中心に国際協会と打ち合わせを行い、国際協会の報告システムと国内の報告システムServannAを結んでいるEMMRシステムを11月に切断する方向で調整しているが、国際協会に要請している日本語対応がいつ完了するかは本部次第のため、時期等は確定ではないことが報告された。また、EMMR切断に伴い、日本ライオンズ賛助会費を含む会費一括請求のためのデータとライオン誌発送先情報の取得、ライオン誌統計用アクティビティ報告などをどうするか、更にはServannAシステムから離脱する地区が出た場合、ServannAの維持をどのようにするかという課題があり、現在検討中の日本ライオンズとのプロジェクト会議では、EMMR切断後も当面は全地区でServannAを継続使用してもらう方向で考えていることが説明され、委員会として了解した。
- 国際協会がシカゴの印刷会社PRドネリーに委託し開発したライオン誌専用アプリを活用するため、本部のデジタル公式版に入れる記事をウェブマガジンの記事に変更することに関しサンプルが提出され、ウェブマガジン4月号から早速変更することを決定した。
- ライオン誌サポーターアンケートの結果を確認した。ウェブマガジンに関しては、速報性や誌面の制限がないため詳細な記事が掲載されているなど好意的な意見がある一方、本誌も含め閲読する人が少ないので、委員会として閲読率を増やすための活動が必要ではとの提言も寄せられた。

閉会あいさつ 矢野敏明委員長

【次回以降委員会開催予定】

5月9日(木)	13:30~16:00	第11回会議	日本ライオンズ事務所
6月7日(金)	13:30~16:00	第12回会議	日本ライオンズ事務所